

2 時点パネル調査による小学生の理科興味を変化させる要因 Factors of the Change in Elementary School Students' Science Interest by Using Panel Survey

学籍番号：201421571

氏名：安達 光理

Hikari ADACHI

近年、子どもの理科への理解や興味関心を向上させるための取り組みが多数行われている。また、理科教育に関する研究も盛んに行われている。しかし日本において理科興味について縦断調査を行った研究は少ない。また、理科興味に影響を与える要因としてチームティーチングや少人数授業のみに触れており、親や教員といった他の要素について検討していない。加えて、外部機関との連携授業が盛んに行われている一方で、受講後に一定期間経過後の理科への興味関心について述べている研究はない。

そこで本研究では、親の理科への興味関心、授業に対する印象、外部機関との連携の有無を要因として取り上げ、複数の小学校の子どもを対象に縦断調査を行い、理科への興味関心がどのように変化するかを明らかにすること、また、どのような要因が理科への興味関心の高さに影響を与えているのかを明らかにする。

調査対象はつくば市内の小学校 2 校の 5、6 年生で、調査方法は、教員に対するインタビュー調査及び生徒に対する質問紙調査である。なお理科への興味関心の変化量を測るため、質問紙調査は 5 月と 11 月の 2 回行った。

調査の結果、理科への興味関心に影響を及ぼす要因として教員の親しみやすさや探求的思考が挙げられ、子どもに考えさせる授業を行うこと、教員の工夫によって理科への興味関心が向上することが明らかになった。また、外部機関との関わりによって単元の記憶度や理科への興味関心が増すことが明らかになった。このことから、外部機関との積極的な連携は理科への興味関心を向上させる重要な要素の 1 つであるといえる。

本研究では 6 か月の追跡調査を行ったが、理科への興味関心は年齢や内容の難易度が上がるにつれて低下していく。よって、より長期的な追跡調査を行い、チームティーチングや教員の親しみやすさ、外部機関との連携の効果が理科への興味関心の変化にどの程度継続的な影響を与えるのかについて検討することが今後の課題となる。

研究指導教員：歳森 敦

副研究指導教員：三波 千穂美